

EWI と PC/Mac の徹底使いこなしガイド

この章では引き続き Tube Synth を使い往年の EWI サウンドを再現した音色をご紹介します。

MPC Beats 付属の Tube Synth で再現した音色ファイル（プリセットファイル）を以下の URL にご用意しました。後編では EWI3000m、EWI3020m の代表的な音色を取り上げ、それぞれのプリセットの音作りと好みの音色を作るための調整方法について解説しています。

事前にプリセットファイルを下記の URL よりダウンロードし、MPC Beats で読み込んでください。

プリセットダウンロード

http://ewi.akai-pro.jp/ewi-with-pc/data/3000m_TSTRUT.zip

http://ewi.akai-pro.jp/ewi-with-pc/data/3020m_axis.zip

付属のソフトシンセを使った音作り（後編）

12-3 T.STRUT (EWI3000m)

12-4 AXIS (EWI3020m)

12-3 T.STRUT (EWI3000m)

音色名から推測できるように、EWI の定番とも言えるフュージョンサウンド。元となる音色は OSC のクロスフェードや FM などの EWI3000m の機能を使っています。今回は同様の作り方ではありませんが、様々なパラメータを調整し同じニュアンスを得られるよう工夫しました。特にクロスフェードやプレスによる PULSE WIDTH 可変の再現がポイントとなります。

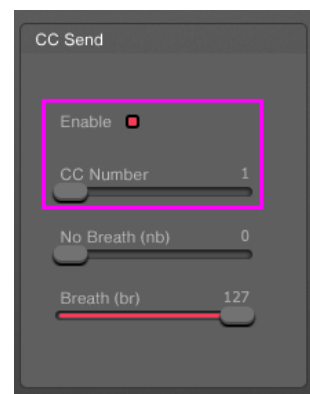
<音作りのポイント>

- OSC1 でノコギリ波、OSC2 で矩形波を選択し、それぞれの FINE を使用してデチューンをかけます。
- OSC2 で F-ENV → SHAPE をプラス方向に少し回し、オシレーターの波形が息の強さで変わるように設定。フィルターのエンベロープは息によって動くよう設定されているので息の強さで波形が変わります。
- 息の強さで同時にカットオフも開くように CC Send を活用して Mod Wheel とプレスが連動するように設定します。

* 演奏時にビブラートを掛けることでより効果的にニュアンスを再現できます。



▲オシレーター1・2の設定



▲オシレーター変化フィルターの変可設定
(左) Tube Synth (右) EWI エディター

12-4 AXIS (EWI3020)

ノコギリ波を使ったシンプルな音色。息の強さで LP Filter の CUTOFF を動かして音色の明暗をつけています。モデルとなっている音色では 1 オシレーターのみ使用していますが、独特の音色の厚みを出すために Tube Synth では 2 オシレーター使用し、同じ波形を重ねています。

プリセットの音色にオクターブ下の SUB OSC を少し加えると、さらに厚みを出すことができます。また一方のオシレーターのオクターブつまみを上げて加えることで、きらびやかな要素を加えることもできます。

<音作りのポイント>

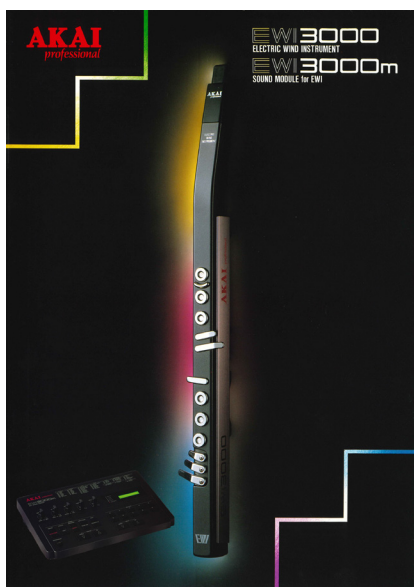
1. オシレーター 1 と 2 に同じノコギリ波を選択。
2. After Touch をカットオフに設定します。
3. さらに厚みを出す場合には、Sub Oscillator を SAW に変更し、Mixer の SUB OSC つまみを上げます。
4. きらびやかな要素を追加したい場合には、一方のオシレーターの Octave つまみを右に回します。



▲ オシレーター 1 と 2 で矩形波寄りのノコギリ波を選択



▲ (左) AFTERTOUCH を Cutoff に設定
(右) SUB OSC を右に回すとオクターブ下の音加わる



▲ 販売当時のカタログ
(左) EWI3000/3000m (右) EWI3020/3020m